

小学生職業体験講座開催事業「ワラッシュ！出張版」 看護師体験ブースの企画運営

職・氏名： 講師 長内志津子
 助教 伊藤耕嗣
 助手 木村ゆかり

I. 事業の背景

本事業は青森市教育委員会が主催となり、市内在住の小学生（およびその家族）を対象として毎年開催されている職業体験、キャリア教育事業である。体験する職業のブースは、ボランティアが担当しており、医療保健福祉分野では「介護職」「薬剤師」ブースがあったものの、「看護師」ブースはこれまで設置されておらず、参加者から望む声があった。

II. 目的

青森市内の小学生を対象に、様々な職業の魅力と実際の現場を知るための職業体験を通して、就労の楽しさや大切さを知ってもらうこと。本学の学生・教員がかかわり、地域の小学生に看護師の仕事を体験してもらうことで、参加者とその家族に看護や医療の仕事へ関心を寄せてもらうこと、本学の存在を身近に感じてもらうことを目的とする。

III. 参加者

1. 大学参加者 ①学生7名（3年：1名、4年：6名）、教員3名
 ②学生7名（3年：7名）、教員3名
2. ブース参加者 ①30名、②17名 他 見学者・ユニフォーム試着者多数
3. 事業全体参加者 ①1,200名、②800名

IV. 事業の内容

1. お仕事体験「看護師のお仕事」ブースの設置（会場には、本学の旗を設置）
「①バイタルサイン（体温、脈拍、呼吸、血圧）測定コース」、「②聴診コース」を設け、ボランティアの学生・教員の指導のもと、参加者に体験してもらう。
2. 看護師ユニホーム試着・写真撮影コーナーの設置

V. 事業の効果

1. 事業開催場所・日時
①青森市浪岡中央公民館 2019年9月29日（日）9：00～15：30
②青森市沖館市民センター 2019年12月8日（日）9：00～15：30
2. 事業の効果

小学生のキャリア教育では、「身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上」を目標の一つとして掲げられることが多い。病院受診や健康診断、予防接種といった機会に小学生が看護師とかかわる機会はあるものの、目にする看護師の職務は限定的である。今年度初めて本学が事業参加し、青森市内に設置する大学として小学生に看護師の体験を

提供する機会を得たことは、先進性があり、地域への貢献にもつながったと考える。

看護師体験ブースは2会場にて、述べ47名の小学生が体験（バイタルサイン測定・聴診）に参加した。参加の理由（複数回答）は、「看護師のことを知りたい」が23名（49%）と最も多く、ついで「看護師になりたい」14名（30%）、「保護者の勧め」12名（26%）であり、参加者本人の関心だけでなく保護者の意向も関係していた。体験内容は、バイタルサイン測定・聴診共に「難しい」「少し難しい」と答えた参加者が約7割であった。参加者の6割が小学1～3年次の低学年の児童であったことが要因として考えられるが、全体として新しいことを知るという経験になったと考える。体験後46名が「楽しかった」、1名が「少し楽しかった」と答え、参加者にとって有意義な体験となっていた。看護師に対する興味は、「興味がわいた」35名（75%）、「少し興味がわいた」8名（17%）であった。自由記載には「またやってみたい」「もっとしりたい」「かんごしになりたいとおもった」「かんごしはこんな仕事をするということがわかりました」とい前向きな感想が主であった。本事業の目的である、看護への関心に導くことができていた。

参加した学生は、実習以外で子どもや保護者とかかわる機会となり、健康教育の難しさと新鮮な楽しさを感じてくれていた。看護の対象は病気の方だけではなく、健康な住民も含まれる。そして、すべての世代の人々に、自分からかかわるコミュニケーション能力が求められる。本事業へ学生が参加することで、実際に地域住民とかかわり関係性を築き、対象者の反応から地域課題について考える機会になっていた。

添付資料

1) 体験（バイタルサイン測定・聴診）の様子



2) 看護師体験ブース会場



3) 集合写真

